

幻想作家は蛇娘に恋をした。

ホフマニアダ

ホフマンの物語

『くるみ割り人形』の原作者E.T.A.ホフマンの空想世界を
ロシアNo1のアニメ・スタジオが15年の歳月をかけて紡ぎあげた異色パペット・アニメーション

制作:ソユーズムリトフィルム 監督:スタニスラフ・ソゴロフ キャラクター・デザイン:ミハイル・シュミアキン 音楽:ジャンドル・カロシュ
引用作品:『くるみ割り人形とネズミの王様』『黄金の壺』『砂男』『こびとツァヘスマたの名をツィノーバー』『ブランピラ王女』他

2018|ロシア|ロシア語・日本語字幕|72min 配給:リスケット 協力:太秦/T&Kテレフィルム/Stylab 監修:木野光司

hoffmaniada.net





『チェブラーシカ』制作スタジオから
“知的で美的な贈り物”

『ホフマニアダ ホフマンの物語』

『チェブラーシカ』(ロマン・カチャーノフ監督)、『霧につつまれたハリネズミ』(ユーリー・ノルシュテイン監督)の制作スタジオとして著名なモスクワのソユーズムリトスタジオが15年の歳月をかけて紡ぎあげた異色ファンタジー『ホフマニアダ ホフマンの物語』が完成し、本国に続き日本でも公開されることが決定した。主人公はドイツ幻想文学の巨匠E.T.A.ホフマン。『くるみ割り人形』と『金の壺』『砂男』といった代表作の登場人物達とともに、現実世界と空想世界(アトランティス)を彷徨い続けるという、ホフマン文学の世界観に溢れた作品である。



これは、狂気か! 芸術か!?

『ホフマニアダ ホフマンの物語』は一コマずつ撮影を重ねるストップモーションで制作された長編アニメーションです。パベットの衣装をはじめ、目や唇の動きまで意識した細部へのこだわりは狂気的ですらあります。クライマックスのシーンでは、総勢50体にはほる人形たちが共演しており、その数はロシア・パベットアニメーション界の記録になっています。

もうひとつの『ホフマン物語』!

昨年末、ホフマン原作『くるみ割り人形』が実写映画化され話題を集めました。ホフマン関連の作品としては、J.オッフエンバックによるオペラ『ホフマン物語』も有名です。また、その映画化『ホフマン物語』(1951年)はベルリン、カンヌ両映画祭で受賞したオペラ映画の傑作です。そして新たに本作の登場と、“ホフマンの物語”は時代を超えて、語り続けられています。



©Soyuzmultfilm



4月、緊急公開決定!! 当日一般 1,800円 / 学生 1,500円 / シニア 1,100円(税込)
前売り鑑賞券、その他特別割引についてはHPにてご確認ください。

JR恵比寿駅東口改札より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分 恵比寿ガーデンプレイス内

東京都写真美術館ホール

TEL 03-3280-0099(代表)
www.topmuseum.jp

作品内容問い合わせ先: 株式会社リスキット TEL 070-4280-6282 info@riskit.jp

至 渋谷

東口 動く通路
JR恵比寿駅

日比谷線恵比寿駅 1番出口

恵比寿ガーデンプレイス

TOP MUSEUM